

2002 . 10

白石区民のページ page

白石区インターネットホームページ
<http://www.city.sapporo.jp/shiroishi/>
白石区民公式サイト「shiroishi.org」
<http://www.shiroishi.org/>

以前、イタリアの教会を訪れた時、一組のステンドグラスに心を奪われた。聖書の一節を表したもののだが、内容は分らない。ただ、ガラスと光がこんなにも人を興奮させるものかと不思議な気持ちにさせられたのを覚えている。

「夫を手伝ううちにのめり込んでしまいました」と笑うのは、妻のさと子さんだ。ステンドグラスは初心者だったものの、もともと美術館に勤めたこともあり、美術に造詣が深かったのだらう。今では制作はもちろん工房の教室やカルチャースクールの講師など英満さんの無二のパートナーとして工房を切り盛りする。

「装飾品であると同時にアートである。それがステンドグラスの魅力ですね」と夫妻は言う。ステンドグラスは、下絵から型を取り、さまざまな色や材質のガラスを銅線や鉛線で組み上げるものだ。ほとんが手作業で、完成まで半年以上を要するものもある

日本のステンドグラスの歴史はまだ百年ほど。欧米のように暮らしの中に根付かせたい。

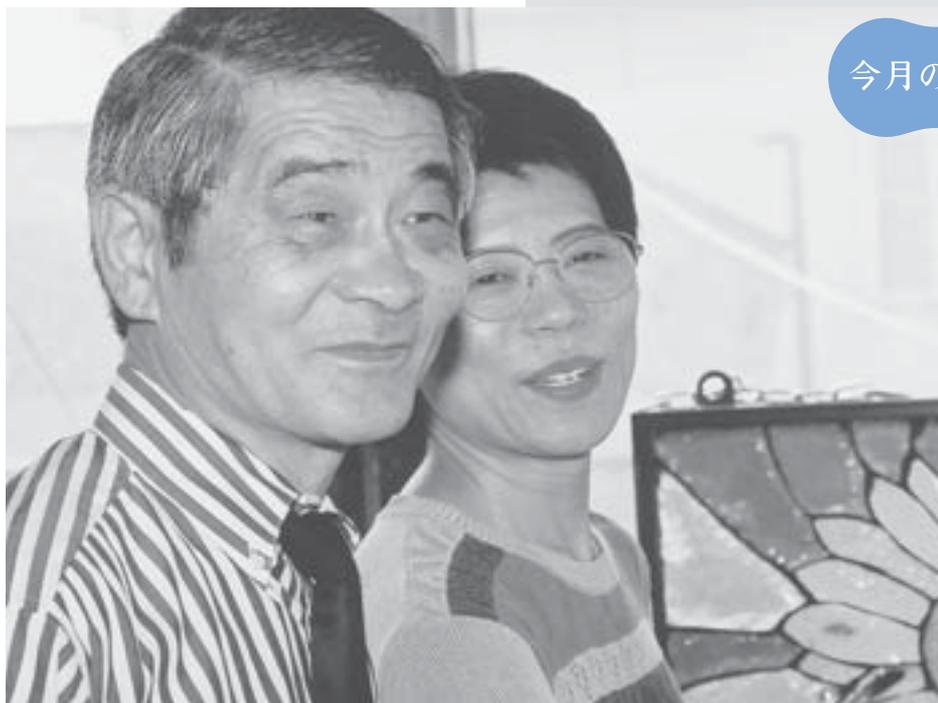
有限会社ステンドグラス総合工房を営む

今月の人

中野 英満さん (五八)

さと子さん (五三)

(菊水六条二丁目在住)



という。微妙な光の加減。ガラスの色と材質。作り手のセンスで作品のイメージはガラリと変わる。夫妻の手によってステンドグラスは芸術作品へと高められるのだ。これまで教会やホテルなどに収められた作品は、優に百点を超える。「自分の代表作に出会えるまで作品を作り続けますよ」と英満さんは言う。「生活のゆとりのためのステンドグラス。そんな楽しみ方を広めたい」とさと子さん。それぞれの思いはあれど、作品にかけられる情熱は共通のものだ。ステンドグラスと光。双方がほどよく調和した時、味わい深い作品が生まれる。まるで中野夫妻そのものだなと思った。

編集 白石区役所総務企画課広聴係
☎003-8612
札幌市白石区本郷通3丁目北1-1
☎861-2400 内線224
FAX860-5236